平成19年6月
勝浦市議会定例会会議録（第4号）

平成19年6月22日

○出席議員 18人

1番 土屋 元 君	2番 忍 足 邦 昭 君	3番 根 本 讓 君
4番 岩 瀬 洋 男 君	5番 中 村 一 夫 君	6番 刈 込 欣 一 君
7番 岩 瀬 義 信 君	8番 寺 尾 重 雄 君	9番 渡 辺 玄 正 君
10番 児 安 利 之 君	11番 高 橋 秀 男 君	12番 板 橋 甫 君
13番 丸 昭 君	14番 八 代 一 雄 君	15番 水 野 正 美 君
16番 伊 丹 富 夫 君	17番 黒 川 民 雄 君	18番 末 吉 定 夫 君

○欠席議員 なし

○地方自治法第121条の規定により出席した者の職氏名

市 長 藤 平 輝 夫 君	副 市 長 杉 本 栄 君
教 育 長 松 本 昭 男 君	総 務 課 長 西 川 幸 男 君
企 画 課 長 滝 本 幸 三 君	財 政 課 長 関 重 夫 君
税 務 課 長 藤 平 光 雄 君	市 民 課 長 関 利 幸 君
介 護 健 康 課 長 乾 康 信 君	環 境 防 災 課 長 酒 井 明 君
清 掃 セ ン タ ー 所 長 黒 川 義 治 君	福 祉 課 長 田 原 彰 君
都 市 建 設 課 長 守 沢 孝 彦 君	農 林 水 産 課 長 藤 江 信 義 君
観 光 商 工 課 長 鈴 木 克 己 君	水 道 課 長 岩 瀬 章 君
会 計 課 長 岩 瀬 武 君	教 育 課 長 渡 辺 宗 七 君
社 会 教 育 課 長 渡 辺 恵 一 君	

○職務のため議場に参加した事務局職員の職氏名

事 務 局 長 関 修 君	議 事 係 長 目 羅 洋 美 君
---------------	-------------------

議 事 日 程

議事日程第4号

第1 議案・請願上程・委員長報告・質疑・討論・採決

（総務常任委員長）

議案第33号 平成19年度勝浦市一般会計補正予算

請願第1号 「地域手当の県内格差支給の是正に関する意見書」提出を求める請願

（教育民生常任委員長）

議案第30号 勝浦市重度心身障害者の医療費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第31号 勝浦市特別養護老人ホームの設置及び管理に関する条例及び勝浦市老人デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第32号 勝浦市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について

議案第34号 平成19年度勝浦市老人保健特別会計補正予算

請願第2号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」提出を求める請願

請願第3号 「国における平成20年度教育予算拡充に関する意見書」提出を求める請願
(建設経済常任委員長)

議案第29号 勝浦市手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第35号 平成19年度勝浦市水道事業会計補正予算

第2 発議案上程・説明・質疑・討論・採決

発議案第3号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書について

発議案第4号 教育予算拡充に関する意見書について

発議案第5号 大多喜町堀之内地区の産業廃棄物最終処分場建設計画に関する意見書について

第5 報告

報告第3号 繰越明許費繰越計算書について

開 議

平成19年6月22日(金) 午後1時00分開議

○議長(末吉定夫君) ただいま出席議員は18人で定足数に達しておりますので、議会はここに成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元へ配布したとおりでありますので、それによってご承知を願います。

議案・請願上程・委員長報告・質疑・討論・採決

○議長(末吉定夫君) 日程第1、議案・請願を上程いたします。

議案第33号 平成19年度勝浦市一般会計補正予算、請願第1号 「地域手当の県内格差支給の是正に関する意見書」提出を求める請願、以上2件を一括議題といたします。

本件に関し、委員長の報告を求めます。児安総務常任委員長。

[総務常任委員長 児安利之君登壇]

○総務常任委員長(児安利之君) 議長よりご指名がありましたので、今期定例会において総務常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果について、その概要をご報告いたします。

当総務常任委員会は、付託されました事件を審査するため、去る6月15日、委員会を開催し、執行部より市長、副市長、教育長及び関係課長の出席を求め、その審査を終了いたしました。

その結果、議案第33号 平成19年度勝浦市一般会計補正予算につきまして慎重審議の結果、お手元へ配布の委員会審査報告書のとおり、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、審査の過程で民生費の社会福祉費、重度心身障害者（児）医療費支給事業費における所得制限、また食事負担額の2分の1削減について、市単独事業として2分の1補助を継続することは評価するが、県の補助廃止も含めて、その根源は国の行革方針にあり、庶民いじめをこのまま受けとめるといふ気持ちにはなれないという意見がありましたので、申し添えます。

次に、請願第1号 「地域手当の県内格差支給の是正に関する意見書」提出を求める請願につきましては、なお慎重審議を期する必要があると、会期中に結論を出しかねるので、議長に対しまして継続審査の申し出をした次第であります。

以上をもちまして、総務常任委員長の報告を終わります。

○議長（末吉定夫君）これより委員長の報告に対する質疑に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって討論を終結いたします。

これより議案第33号 平成19年度勝浦市一般会計補正予算を採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○議長（末吉定夫君）挙手多数であります。よって、議案第33号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、請願第1号 「地域手当の県内格差支給の是正に関する意見書」提出を求める請願につきましては、先ほどの総務常任委員長の報告のとおり、会議規則第103条の規定により、閉会中の継続審査の申し出がありました。本件につきましては、総務常任委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）ご異議なしと認めます。よって、請願第1号は閉会中の継続審査に付することに決しました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第30号 勝浦市重度心身障害者の医療費支給に関する条例の一部改正する条例の制定について、議案第31号 勝浦市特別養護老人ホームの設置及び管理に関する条例及び勝浦市老人デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第32号 勝浦市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について、議案第34号 平成19年度勝浦市老人保健特別会計補正予算、請願第2号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」提出を求める請願、請願第3号 「国における平成20年度教育予算拡充に関する意見書」提出を求める請願、以上6件を一括議題といたします。

本件に関し、委員長の報告を求めます。高橋教育民生常任委員長。

〔教育民生常任委員長 高橋秀男君登壇〕

○教育民生常任委員長（高橋秀男君）議長よりご指名がありましたので、今期定例会において教育民生常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果について、その概要をご報告いたします。

当教育民生常任委員会は、付託されました事件を審査するため、去る6月18日、委員会を開催し、執行部より市長、副市長、教育長及び関係課長の出席を求め、その審査を終了いたしました。

その結果、議案第30号 勝浦市重度心身障害者の医療費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第31号 勝浦市特別養護老人ホームの設置及び管理に関する条例及び勝浦市老人デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第32号 勝浦市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について、議案第34号 平成19年度勝浦市老人保健特別会計補正予算、以上4件につきまして、慎重審議の結果、お手元へ配布の委員会審査報告書のとおり、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、請願第2号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」提出を求める請願、請願第3号 「国における平成20年度教育予算拡充に関する意見書」提出を求める請願、以上2件につきましては、願意妥当と認め、全員異議なく、採択すべきものと決定いたしました。

以上をもちまして、教育民生常任委員長の報告を終わります。

○議長（末吉定夫君）これより委員長の報告に対する質疑に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって討論を終結いたします。

これより議案第30号 勝浦市重度心身障害者の医療費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○議長（末吉定夫君）挙手多数であります。よって、議案第30号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第31号 勝浦市特別養護老人ホームの設置及び管理に関する条例及び勝浦市老人デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、議案第31号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第32号 勝浦市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、議案第32号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第34号 平成19年度勝浦市老人保健特別会計補正予算を採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、議案第34号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、請願第2号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」提出を求める請願を採決いたします。本件に対する委員長の報告は採択であります。本件は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、請願第2号は、採択と決しました。

○議長（末吉定夫君）次に、請願第3号 「国における平成20年度教育予算拡充に関する意見書」提出を求める請願を採決いたします。本件に対する委員長の報告は採択であります。本件は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、請願第3号は、採択と決しました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第29号 勝浦市手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について、議案第35号 平成19年度勝浦市水道事業会計補正予算、以上2件を一括議題といたします。本件に関し、委員長の報告を求めます。黒川建設経済常任委員長。

〔建設経済常任委員長 黒川民雄君登壇〕

○建設経済常任委員長（黒川民雄君）議長よりご指名がありましたので、今期定例会において建設経済常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果について、その概要をご報告いたします。

当建設経済常任委員会は、付託されました事件を審査するため、去る6月20日、委員会を開催し、執行部より市長、副市長、教育長及び関係課長の出席を求め、その審査を終了いたしました。

その結果、議案第29号 勝浦市手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について、議案第35号 平成19年度勝浦市水道事業会計補正予算、以上2件につきまして慎重審議の結果、お手元へ配布の委員会審査報告書のとおり、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上をもちまして、建設経済常任委員長の報告を終わります。

○議長（末吉定夫君）これより委員長の報告に対する質疑に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって討論を終結いたします。

これより議案第29号 勝浦市手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、議案第29号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、議案第35号 平成19年度勝浦市水道事業会計補正予算を採決いたします。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、議案第35号は、原案のとおり可決されました。

発議案上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（末吉定夫君）日程第2、発議案を上程いたします。

発議案第3号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書について、発議案第4号 教育予算拡充に関する意見書についてを議題といたします。

職員に発議案を朗読させます。目羅係長。

〔職員朗読〕

○議長（末吉定夫君）発議者から提案理由の説明を求めます。高橋秀男議員。

〔11番 高橋秀男君登壇〕

○11番（高橋秀男君）議長よりご指名をいただきましたので、ただいま議題となりました発議案第3号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書について、発議案第4号 教育予算拡充に関する意見書について、提案理由の説明を申し上げます。

初めに、発議案第3号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書について申し上げます。

義務教育費国庫負担制度は、憲法上の要請として、教育の機会均等とその水準の維持向上を目指して、子供たちの経済的、地理的な条件や居住地のいかんにかかわらず、無償で義務教育を受ける機会を保障し、かつ一定の規模や内容の教育を確保するという国の責務を果たすものです。

国においては、三位一体改革の論議の中で、平成17年11月には義務教育費国庫負担制度の見直しが行われました。その内容は、義務教育費国庫負担制度は堅持するが、費用負担の割合については2分の1から3分の1に縮減するというものでした。政府は、教育の質的議論を抜きに、国の財政状況を理由として、これまで義務教育費国庫負担制度から対象項目を外し、一般財源化してきました。今後、3分の1とした国庫負担金の割合が恒久措置ではなく、制度全廃も含めた検討がなされる可能性もあります。

義務教育における国と地方の役割等について、十分議論がされないまま地方分権推進の名のもとに、このような見直しが今後さらに行われると、厳しい地方財政をますます圧迫するばかりではなく、義務教育の円滑な推進に大きな影響を及ぼすことが憂慮されます。また、義務教育費国庫負担制度が廃止された場合、義務教育の水準格差が生まれることは必至です。

よって、国においては21世紀の子供たちの教育に責任を持つとともに、教育水準の維持向上と地方財政の安定を図るため、義務教育費国庫負担制度を堅持するよう強く要望しようとするものであります。

次に、発議案第4号 教育予算拡充に関する意見書について申し上げます。

教育は、憲法・子どもの権利条例の精神にのっとり、日本の未来を担う子供たちを心豊かに教え育てるという重要な使命を持っています。

しかし、現在、日本の教育は、いじめ、不登校を初め、いわゆる学級崩壊、さらには少年による凶悪犯罪、経済不況の中、失業者の増加により授業料の滞納等、さまざまな深刻な問題を抱えています。一方、国際化、高度情報化などの社会変化に対応した学校教育の推進や教育環境の整備促進、総合的な学習の実施や選択履修の拡大に伴う経費等の確保も急務です。

千葉県及び県内各市町村においても、ゆとりの中で子供たち一人一人の個性を尊重しながら、生きる力と豊かな人間性の育成を目指していく必要があります。そのためのさまざまな教育施策

の展開には、財政状況の厳しい現状を見れば、国からの財政的な支援等の協力が不可欠です。平成19年度の文部科学省所管の一般会計予算は、前年度比 2.7%増となりましたが、県、市町村への地方交付税交付金は削減されています。

充実した教育を実現させるためには、子供たちの教育環境の整備を一層進める必要があります。よって、国においては教育が未来への先行投資であり、日本の未来を担う子供たちに十分な教育を保障することが国民の共通した使命であることを再認識され、国財政が非常に厳しい状況の中ではありますが、次の項目を中心に必要な教育予算を確保することを強く要望いたします。

1、子供たちにきめ細かな指導をするための公立義務教育諸学校教職員定数改善計画を早期に策定すること。

2、少人数学級を実現するための義務教育諸学校における学級編制基準数を改善すること。

3、保護者の教育費負担を軽減するために、義務教育教科書無償制度を堅持することや、就学援助にかかわる予算を拡充すること。

4、子供たちが地域で活動できる総合型地域クラブの育成等の環境・条件を整備すること。

5、危険校舎、老朽校舎の改築やエアコン、洋式トイレの設置等の公立学校施設整備費を充実すること。

6、子供の安全と充実した学習環境を保障するために、基準財政需要額を見直し、地方交付税交付金を増額すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出しようとするものであります。

何とぞ、発議者の意をご賢察の上、よろしくご審議をいただき、可決あらんことをお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（末吉定夫君）これより質疑に入るのですが、ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております発議案第3号及び発議案第4号につきましては、会議規則第37条第2項の規定により委員会の付託を省略したいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）ご異議なしと認めます。よって、発議案第3号及び発議案第4号につきましては、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入るのですが、ただいまのところ通告はありません。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）それでは、討論を終結いたします。

これより発議案第3号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書についてを採決いたします。本案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、発議案第3号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、発議案第4号 教育予算拡充に関する意見書についてを採決いたします。本案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○議長（末吉定夫君）挙手全員であります。よって、発議案第4号は、原案のとおり可決されました。

○議長（末吉定夫君）次に、発議案第5号 大多喜町堀之内地区の産業廃棄物最終処分場建設計画に関する意見書についてを議題といたします。

職員に発議案を朗読させます。目羅係長。

〔職員朗読〕

○議長（末吉定夫君）発議者から提案理由の説明を求めます。伊丹富夫議員。

〔16番 伊丹富夫君登壇〕

○16番（伊丹富夫君）議長よりご指名がありましたので、ただいま議題となりました発議案第5号 大多喜町堀之内地区の産業廃棄物最終処分場建設計画に関する意見書について、提案理由の説明を申し上げます。

大多喜町堀之内地区に産業廃棄物最終処分場建設が大多喜エコタウン株式会社によって進められております。これに対して、いすみ市議会、大多喜町議会から県に対して慎重な対応を求める意見書が提出されていると聞き及んでおります。

この産業廃棄物最終処分場建設予定地は、国道297号の沿線にあり、埋め立て量85万立方メートルという大型施設が完成すると、周辺の環境汚染はもとより近隣自治体の水道水の汚染や夷隅川流域及びこれに連なる海岸線の汚染による沿岸漁業への影響が危惧されます。

国道297号は、勝浦市と県都千葉、首都圏を結ぶ唯一最大の基幹道路であり、勝浦市で水揚げされたカツオやマグロを初め新鮮な魚介類、水産加工物など、この道路を経て全国に搬出されています。また、勝浦市のビッグイベントであるビッグひな祭り、あるいはカツオまつりや海水浴客を初め、多くの観光客のほとんどがこの道路を経由して勝浦を訪れます。

この国道297号沿線に大規模な産業廃棄物最終処分場が建設されると、首都圏のみならず、関東全域、さらに広い範囲から産業廃棄物を満載したダンプカーが押し寄せ、トラックから出る粉じんの飛散や道路の混雑により観光客の足も遠のき、道路の機能低下により勝浦市の基幹産業にも重大な影響を及ぼすことが懸念されます。さらにこの国道297号は、圏央道の事業進捗に伴い重要性はますます高まってまいります。

勝浦市は長年、市原市及び大多喜町とともに国道297号線整備促進期成同盟会を設置し、国や県など関係方面に整備促進の陳情をしてまいりました。大多喜町堀之内地区の産業廃棄物最終処分場建設は、私どものこうした努力に水をさすものと言わざるを得ません。

したがって、県に対し、以上の状況を賢察の上、慎重な判断を下すよう強く要望するため、

地方自治法第99条の規定により意見書を提出しようとするものであります。

何とぞ発議者の意をご賢察の上、よろしくご審議をいただき、可決あらんことをお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

- 議長（末吉定夫君）これより質疑に入るのですが、ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。寺尾重雄議員。
- 8番（寺尾重雄君）発議者にお伺いしたいのですが、この内容を私は建設常任委員会のときにいただきました、そこまで対岸の問題でしか私もとらえてなかったんですけど、この内容を見ますと、確かに297号沿い、圏央道の問題、要するにカツオ、マグロの販路の重要道路としてあるんですけど、この堀之内の産業廃棄物に関する処分場の概要、その中でトラック等、またこれで勝浦の基幹産業が非常に重大な影響を及ぼすということの内容が、この意見書の中にあるわけなんですけど、その辺のことをもう少し具体的に発議者の方から説明願えたら助かると思ってます。以上です。
- 議長（末吉定夫君）答弁を求めます。伊丹富夫議員。
- 16番（伊丹富夫君）ただいま発議案の説明をしましたが、地元である大多喜町議会ですら、同じような意見書を提出されたということを踏まえまして、隣接する我が勝浦市も、先ほど説明したとおり、魚介類の搬送につきましても影響がある。また、各種のイベントに対してもそのような影響があると、このような判断のもとに提出をさせていただきました。以上。
- 議長（末吉定夫君）ほかに質疑はありませんか。寺尾重雄議員。
- 8番（寺尾重雄君）私も限られた時間の質問。内容的なもの、これに伴う、書かれている、懸念される問題点がどのようにどう受けているか。私たちはこの意見書をもって陳情する、あるいは県の方に提出する。その内容もわからないで上げることもできないので、説明願えたらということ、すべてじゃなくて。私も大多喜の知人関係から2日前に聞かれて、すぐにどういう内容か審議しなければいけないですから、これを聞いた中で、今の内容をもう少し詳しい中で、ほかの議員はわかっているのかどうかわからないんですけど、私も納得できる中で聞きたいものから、説明願えたらなということなんです。
- 議長（末吉定夫君）答弁を求めます。伊丹富夫議員。
- 16番（伊丹富夫君）内容ということですが、一つには勝浦市から千葉まで通る基幹道路、297号を通過して、その中間にそういう大型施設ができた場合、先ほど私が説明したとおり、ダンプ街道になり、そういう粉じん等で多大な影響を受けざるを得ない。そういう判断のもとで、まして、繰り返しますけども、いすみ市議会でも出して採択された。地元の大多喜町議会でも採択された。それに伴い、隣接する我が勝浦市の議会でこれの内容がどうこうして、これを採択できないようなことであれば、いかななものかな。そういうことでございます。
- 議長（末吉定夫君）ほかに質疑はありませんか。寺尾重雄議員。
- 8番（寺尾重雄君）実際、その内容的なものを理解した上で、どのくらいのダンプ街道になるのか、近隣の市町村の中では、茂原市の1市6町のエコパーク長生、それは有料道路のすぐそばにあるわけですね。そこも観光ルートとして、結局、有料から入ってくる観光、白子、九十九里、しいていえば勝浦、そういう状況下の中にもあるわけです。この幹線道路、実際、道路サイド系の店舗が出店するときに、これは都市計画でもそうなんですけど、1万2,000台の普通乗用車からトラックからダンプからバスからチェックしながら、店舗サイドは出店してきているわけですね。

私も仕事柄、君津、木更津の方へ行きますと、確かにダンプが多いです。あの砂というのは全国ネットで日本の砂を運んでいるような状況下です。ただ、この85万立米を運ぶに当たって、私も知識ない中で聞くと、10年間で埋め立てると。そうしたときに、これがどのくらい勝浦市民に影響があるのか。そして、これがどれだけ不利益を与えるのか。

関東一円とここに書かれてはおりますけど、同じ業者じゃないんですけど、君津市にも施行業者がつくっているということも認識しているんですけど、果たしてどこまでどのように影響を与えながら、勝浦に不利益になっちゃうのか。これは私も議員として、市民が不利益になるものを、あえて望むわけじゃない。ただ、日本の中で、また世界的な環境問題の中で、必要なものを最大限、どのように、どう共存しながら、ごみゼロ運動から、大手さんもやっているんでしょうけど、そういう中でこれは今後の重大課題です。この近隣市町村においても、そういう意味で理解を求めて、私は質問している次第なんですけどね。

ただ、鮮魚を運ぶにしても、車が詰まったら鮮度は落ちるでしょう。ただ、その時間帯とか、いろんな待ち時間の中で相手方との協議とか、いろんな面でこの地域の中、夷隅、広域の中でも共存し合わないと、我々のごみというのはどこに行くんですか。他県に持っていったり、他のところに持っていったり、それで済むものじゃないと思っていますから、この辺の意見をもう少しわかるようお願いしたいということで質問している。以上です。

○議長（末吉定夫君）答弁を求めます。伊丹富夫議員。

○16番（伊丹富夫君）何度も繰り返しますけども、過去にあの大型最終処分場建設計画が浮上してきたときに、地元はもとより、隣接する、今、いすみ市になった旧夷隅町、これらの方々の反対の署名を集めたことはご案内のとおりで、約1万1,000という署名をもって、その反対同盟の方が現田嶋町長に提出された。そういうことは、寺尾議員も重々理解をしていると思っています。何が魂胆で今、我々が提案したこの産業廃棄物最終処分場の件について、どういう意図があるか、私が聞きたいぐらいでございます。どうか、十分なご審議を賜りまして、可決あらんことをお願いを申し上げ、終わります。

○議長（末吉定夫君）ほかに質疑はありませんか。児安利之君。

○10番（児安利之君）提案者に幾つかお聞きします。私は、全体としてこの意見書に対して賛成の立場であることをまず表明しますが、一つは、今、前段者も聞いているように、85万立米、10年間というのは正しいと思うんです、企業側はそういう説明に立っていますから。これは10年間でやる、例えば10トン車で割り返していけば、1日にならせば10台から20台前後だろうと思うんです。だから、そういう点はあるんだけど、しかし、たとえ1日10台、20台であっても、粉じんを絶対にまかないという保証はない。もう一つは、私が一番危惧するのは、この大多喜町という自然豊かな自治体に、何で85万立米もの一般廃棄物じゃなく産業廃棄物の捨て場をそこに設置しなきゃならないのかという問題だと思うのです。

交通渋滞については、率直に言うと、そんなすごい渋滞はあるだろうとは思わないんだけど、しかし、それよりも何りよも、この夷隅郡市の地域の中で、兄弟市町村の中で、大多喜町のごみを処理するために大多喜地先に85万立米の産廃の処分場がなぜ必要なのかということが第1の疑問。

もう一つは、いすみ市、そういう中でも旧夷隅町の水道水源にもろに、もし汚水が漏れた場合に、あの夷隅川といすみ市の中を走っている川に落ちていく。地形上、勝浦が佐野からの水道水

源として使っている表流水の方には流れてこないんですけども、しかし、いすみ市にとってみれば、万一汚水があふれた場合に、しみ込んだ場合に、いすみ市民の生活上、大変な事態が起きるといふ危険が十分にある。産廃処分場の工法を見させてもらおうと、ラバーですから、それが絶対にやぶけたりしないという保証は全くない。しかも、夷隅川がやがて太平洋に汚染された水が注いでいった場合に、勝浦市の沿岸漁業にとってだって全く影響がないとは言い切れない。太東や大原の沿岸漁業、勝浦市の沿岸漁船も、太東沖まで漁業に出かけていくわけですから、そういう点からしても、魚に対する影響、ひいては漁業に対する影響、消費者に対する影響が絶対ないとは言い切れない。

そういう幾つかの内容がここに含まれているし、そういう点では産業廃棄物のこんな大規模な処分場は、あるよりないにこしたことはないという立場なんだけれども、今、私が言ったような趣旨も提出者の提案理由の中に内包されているのかどうか、その点について、1点お聞きしたい。以上です。

○議長（末吉定夫君）答弁を求めます。伊丹富夫議員。

○16番（伊丹富夫君）ただいま児安議員が私の意図するところをお聞きしたと思いますが、そのとおりでございますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（末吉定夫君）ほかに質疑はありませんか。水野正美議員。

○15番（水野正美君）私、賛成者になっているんですけど、実は今、寺尾議員からるる質問がありました。私は大多喜の反対している方々にいろいろ話を聞いて、どういうことが現地で起こっているかという、今は85万トンですよ。しかし、あそこは周りの土地、山、山林、売りたいがっている人がそれなりにいる。だから、ここは一回できれば、次はどんどんふやすんだと、こういうふうに言って、賛同者を募っていると。ただ、85万立方メートルだけで用が済まないということ、これを反対同盟の方々は強く懸念をしているわけですね。ですから、何トンの車がどのくらいの交通量なんだという、85万立方メートルを10トン車だからこれで割れば大体出てくる。しかし、業者が県に申請しただけの量で済むのかどうなのかという問題が、いろんな懸念があるから、だから、みんなこの文書では懸念という言葉を使っていて、確定的なことは言えない。ということは、業者がどういうふうに計画変更して申請するかわからないからですね。

それで、私、思い出すんですけども、であるとするならば、そういうことがはっきり数字であらわれなければ、自分たちの判断はできないのか。私は、かつて部原に大規模な産業廃棄物の最終処分場を建設するときに寺尾議員なんか反対の最先頭に立っていたというふうに理解しているんです。どういう理由で、そのときに反対したのか。この問題は、きょういきなり、この意見書が出されたわけじゃないので、議員として調べようと思えば、幾らでも調べられる。実際問題として、斎藤万祐さんだって推進派ですから、この人の選挙運動やっていた人たちがこの人から聞いて、何ゆえに推進するのかといたら、その計画内容は知らないで推進するわけじゃないでしょう。だから、承知していて議論していると私は思うんですね。

ですから、業者が計画して県に出したので、それで終わりなのか。そんなことないよ。今までこんな計画はそんなことなかったじゃないですか。しかも、先ほど児安議員から言われたように、シート1枚、これは室蘭の大規模な産業廃棄物最終処分場を見学したときに、よくわかるんですけど、1平米にセンサー1個ずつだーっと並べてあるけれど、このゴムなんかいつ切れるかわからない。5メートル、10メートル、20メートル、廃棄物がどんどん積み重なったときに、センサ

一が警報発したからって、これを掘り返して修繕しますかといったら、しませんと言いましたよ。だから、海上町の産業廃棄物最終処分場の裁判で、ことしに入って千葉地裁から国の基準をクリアしているからといって、住民にとって安全ではないといって、住民側が勝訴しているでしょう。

だから、今、私たちがこの問題を判断するとき、全部が全部明らかにならなければ賛否ができないのか。私はそんなことないと思います。みずから調べて、みずからの判断に照らして、反対だったら反対すればいいし、賛成だったら賛成すればいい。今ここに書かれているのは、業者は言っているけど、そのとおりになるのかという問題も非常に危惧している。

この意見書には書かないけれども、私は全国見てみて、勝浦市の大森のごみ捨て場が、あれは一般の産業廃棄物の大規模な業者だった場合にはどうしますか。大多喜のこの計画だって、途中で埋め立てるだけで埋めちゃって、あとの始末、10年以上にわたって環境汚染の影響調査をやりながら、上に土をかぶせて木を植える。そういうところまで業者はやらなきゃいけないですよ。ところが、埋めるだけ埋めちゃって、業者が倒産しちゃたら、どうするんですか。大多喜町がやらなくちゃいけなくなるでしょう。そういうようなことも含めて、こういう非確定的なものを含めて大変大きな問題があるということを、それは産業廃棄物に賛成、反対の運動にかかわった人間だったら百も承知だと思うんですね。部原の産廃反対運動のときだって住民大会やったでしょう。それで、この問題についていろんな情報が出されたでしょう。

ですから、全部が全部わからなければ判断できないということにはならない。だから、今、我々だって全部がわかって賛成、反対、言っているわけじゃない。少なくとも、業者から出てきた計画と、今後懸念される事柄を中心に判断をしながら、私たちは勝浦市のために、こういう大型な産業廃棄物最終処分場が我々の生命線である国道 297号の沿線に建設されるということは、勝浦にとって非常に大きな問題だ。このような認識で私は賛成者の一員になったわけであり、ます。ですから、もしこれに反対するんだったら、反対する論理をきちんとして、討論の中で明確にしていきたい、このように思いますので、議長としてもそのように扱っていただきたいとお願いを申し上げまして、発言を終わります。以上です。

○議長（末吉定夫君）ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております発議案第5号につきましては、会議規則第37条第2項の規定により委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）ご異議なしと認めます。よって、発議案第5号につきましては、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入るのでありますが、ただいまのところ通告はありません。討論はありませんか。寺尾重雄議員。

〔8番 寺尾重雄君登壇〕

○8番（寺尾重雄君）発議案第5号に対しての反対の立場で討論いたします。

世界的に環境問題が取りざたされている今、国際環境の歴史をたどると、1989年3月、スイスのバーゼルにおいて有害廃棄物の国境を越える移動、及びその処分の制限に関するバーゼル条約が締結されており、我が国もこのような国際的な動向に適切に対処し、有害廃棄物の越境移動に

よる国境を超えた環境汚染を未然に防止するために1993年に条約を批准いたしました。また、1989年、ブラジルにおいてオゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書があります。この会議において、世界先進国の中で1993年、そのときの外務大臣の渡辺美智雄氏が48番目に条約を批准しております。オゾン層のオゾン濃度の減少により、有害的な長波の赤外線が増大し、人体に対し皮膚がんや白内障等の健康障害を増加させる可能性が高いとされております。時の鉄の女性と言われるイギリスのサッチャー首相が、オゾン層による被害を受けやすい人種として、白人が最初であり、次は黄色人種であると、有名な言葉を残しております。1997年には、12月、京都議定書が定められ、CO₂の削減を定め、現在に至っております。

そこで、観光に力を入れている勝浦市がカツオ、マグロ、魚介類等の搬送ルートが産業廃棄物の輸送に使われる297号線整備促進期成同盟等で同じ道路整備が行われる圏央道が大多喜町より10キロのところインターチェンジができ、市原市、勝浦市、大多喜町も道路整備をお願いしていることは、皆様もご存じと思われまふ。大多喜町の最終処分場の計画は、勝浦市にとって重大な影響を及ぼすものではないかと懸念され、まだ十分に検討すべきと思われまふ。

私なりに調査したことですが、全国に3,000カ所、内訳は自治体運営が2,000カ所、民間施設が1,000カ所、大多喜町処分場は管理型処分場で君津環境センター107万立方メートルと並び、日本でも最高水準の設備を誇るものだと聞いております。大多喜町の最終処分場は1日のダンプ台数は40台で、時間当たりになりますと6台、埋め立て85万立米、10年間で埋め立てるという業者の報告になっております。今、このようなことを考えると、この処分場は管理型処分場としては安全・安心の施設ではないかと思う次第でございます。この近隣自治体において、茂原市の有料道路の入り口の長生1市6町のエコパーク長生、ここに問題は感じられないと私は思う次第でございます。

また、夷隅郡市においても、越境を考えるなら近隣で民間がつくるのが望ましく、自治体に必要であるのかどうかは、この勝浦市民が利益となるものをどのようにつくっていただき、そしてこれが後世にどのようなになるかは、私たちが審議し、市民の意思を尊重しながら、この問題に取りかからなければいけないと、私は思う次第でございます。

安全面よりお話ししますと、施設の構造は管理型処分場で、二重構造で、事故修繕シート、漏水検知システムが働き、この管理型処分場は最高水準の日本の施設の中では一番いい施設ということですが、この辺のことも十分これから考えながら、管理型というものをもう少し認識し、市民の中に、そして我々のごみの行く末をどう考えるかを、これから思う次第でございます。

そういうことをもちまして、これについては継続審議といたしたいのですが、この発議案第5号に対し反対の立場で討論を終わらせていただきます。以上です。

○議長（末吉定夫君）ほかに討論はありませんか。水野正美議員。

〔15番 水野正美君登壇〕

○15番（水野正美君）私は、本件に賛成の立場で討論をいたします。

先ほど概略については発言をいたしました。多少重複しているところがあるかもしれませんが、ご容赦をお願いしたいと思います。

産業廃棄物最終処分場が社会的に必要な施設であることについては、反対するものではありません。しかし、社会的に必要なものなら公の機関として行うべきであります。先ほども申し上げましたけれども、民間企業が最終処分場を建設をして、そこにどんどんごみを捨てる。ほぼ満

杯になったら、その会社はもうごみから利益が上がらない。あとは、どんどん後始末のための資金が必要なだけであります。その段階において倒産をした場合には、一体、だれが責任持つんですか。直接的には当該の大多喜町でしょうけれども、責任を持つ者がいなくなる。こういう状況であるならば、これを防ぐ方法は、先ほど私が申し上げたように、公的機関がきちんとやる。そして、後始末も責任を持ってやる。途中で倒産するような民間会社は、これから手を引かせる。これが社会的に必要なものをきちんと社会が保障する、この方法だろうというふうに私は思うんですね。

ここを野放しにしておいて、先ほど私、申し上げましたけれども、一遍、処分場ができ上がれば、そこには全国から殺到してきます。どんどん1カ所ごとどまりません。1カ所、堀之内だけでなく、どんどんその面積が広がっていくと同時に、千葉県夷隅郡はくみしやすいということでもここに産廃業者が群がってくる、こういう状況も考えられるわけであります。

ですから、私はそういうものについては、注意深く見なければならぬ。しかも、先ほど申し上げましたように、裁判でも海上町は国の基準をクリアしたからといって、住民が安心できないということは、そのとおりのこと。そういうことを言って、住民勝訴の判決が出ています。住民は、自分たちの力で、自分たちの環境や生活を守るとのことだろと思うんですね。

ですから、私たちはそういう意味から、意見書にもありますように、297号というのは、勝浦市にとって生命線である。それと同時に、これは夷隅郡内の環境を守る運動でもあり、同時に沿岸漁業を守る運動でもある。こういう立場から、私はこの意見書提出に賛成するわけであります。

今ある業者がこれから先、どの程度、事業を拡大していくのか、責任をとるのか、これから先のことは全部わからないにしても、だからこそ逆に不安がある。だから、こういうものは、本来からいうと、公的機関が処理しなければならないというふうに思います。ですから、先ほど反対論者が言いましたように、1日40台、1時間6台、10年間で埋め立てる。だけど、10年間と言ったのは計画だけでしょう。どんどんごみがふえてくれば、今、捨てる場所に困っているんだから、計画どおりにいくという保証はだれがするんですか。ここの85万立方メートルの量を拡大しないという保証はどこにあるんですか。全く何もないんです。業者が必要とすれば、今の廃棄物及び清掃の処理に関する法律に基づいて、業者が事業申請をしていけば、県はそれを拒否できないような今のシステムになっているんじゃないですか。そういう立場からいえば、私は確信がなければ芽のうちにつぶしていくということが、みずからの生活と環境を守る上で必要だと思うんですね。

先ほども申し上げましたように、部原地区の産業廃棄物最終処分場計画も一番近代的でしたよ。今と同じですよ。シートを張って、1平米に全部センサーをつけて、漏れたら漏れたところがわかる。わかったら、そこを補修するんだ。こういうシステムになっています。だけど、それでも部原は皆さん、反対したでしょう。それは安心できないからです。裁判所がそれを認めているんです、海上町の問題でね。

いやしくも政治家は、自分がかつて反対したら、それが賛成に回るなら、賛成に回るような論理を説明しなきゃいけない。かつて、私は寺尾議員が反対して、部原区の集会で全員一致であれを反対して、土地を売らないという決議までしました。今、安全だといって上げられた論理が、ああいうことで安全を具備している大量の施設だ、最も近代的な施設だといった施設は、まさにあそこなんですよ。基本的には同じです。多少の進歩はあるかも知れませんが、同じなん

です。あっちが反対して、こっちは賛成するんだったら、それはそのように、なぜそうなったかということの説明する義務がある、説明責任がある。私は部原の産業廃棄物最終処分場の建設にも反対しました。興津坂にそういう計画が持ち上がったときにも、私は市政報告でもって反対をして、住民の皆さんに知らせました。今回もこの大多喜の建設問題について憂慮しておりました。幸いにして大多喜町が、当の町議会が反対を決議をし、いすみ市も決議をし、そして勝浦市も、この夷隅郡を守るという立場と勝浦市の産業、とりわけ水産業を、観光業を守っていくという立場から、この意見書を県知事に対して提出するということについて、私は今申し上げたような理由で賛成をしたわけであります。

私はそういう意味で、産業廃棄物最終処分場の建設には一貫して反対の立場を表明してまいりました。そういう立場からも、大多喜町の堀之内にこの建設を認めるわけにはいかない。現地の方々と、それを憂う夷隅郡の多くの人たちと一緒に、この建設計画をやめさせるために全力を尽くす決意を申し上げまして、私の賛成討論といたします。

○議長（末吉定夫君）ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（末吉定夫君）それでは、討論を終結いたします。

これより発議案第5号 大多喜町堀之内地区の産業廃棄物最終処分場建設計画に関する意見書について採決いたします。本案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○議長（末吉定夫君）挙手多数であります。よって、発議案第5号は、原案のとおり可決されました。

報 告

○議長（末吉定夫君）日程第3、報告であります。

報告第3号 繰越明許費繰越計算書について、市長の報告を求めます。藤平市長。

〔市長 藤平輝夫君登壇〕

○市長（藤平輝夫君）ただいま議題となりました報告第3号 繰越明許費繰越計算書について申し上げます。

本件は、平成18年度勝浦市一般会計予算の繰越明許費で、介護保険システム修正業務に係る経費400万円、及び道路橋りょう等補助災害復旧事業に係る経費2,224万9,500円を平成19年度へ繰り越すために調整した繰越明許費繰越計算書であります。

以上で報告を終わります。

○議長（末吉定夫君）これをもって報告を終わります。

閉 会

○議長（末吉定夫君）以上をもちまして、今期定例会に付議されました事件はすべて議了いたしました。

これをもって平成19年6月勝浦市議会定例会を閉会いたします。

午後2時13分 閉会

本日の会議に付した事件

1. 議案第29号～議案第35号、請願第1号～請願第3号の総括審議
1. 発議案第3号～発議案第5号の総括審議
1. 報告第3号の報告

上記会議の・末を記載しその相違ないことを証し署名する。

平成 年 月 日

勝浦市議会議長

署名議員

署名議員